

≪統計の祭たたえて菊薫る≫

天高く 菊薫るこの日
統計マン唯一の祭典 県統計大会
照明に映える 茨城県統計大会の文字
日章旗の誇り 松のみどり
受賞者と来賓の胸の 大きな記章
はるばる集う 千余の統計マン
準備はOK 和やかに拍手のうち幕があく
前進を続ける社会 高度化する統計
統計の使命を胸に誓つて
統計マンの団結は固い
ガツチリとスクラム組もう
良い統計の作成のために

≪胸張つてこの日統計マンの意気≫

この大会でも、統計の重要性についていろいろの方々から説かれる。それほど重要な統計だが、一般の関心は至つて低い。そのことをいちばん痛切に身をもつて体験しているのが、第一線に活躍している市町村の統計関係者ではないだろうか。

各種の統計調査が、大勢の人の手により1枚1枚と配られ、集められ、その1枚に記入された数字の集積が、生きた数字となつて私達の生活をより明るく、豊かにするための各種の政策の礎石として活用される。たかが1枚だからという安易な気持ちの不正確な記入が、つもれば大きな誤差となつて表われ社会の不信を招く結果にもなろう。統計調査員の方々には、常にこのような調査上の問題について適格な判断をもつて処理し正確な統計の作成のために努められているわけである。統計マンたるものこの大会に当り輝しい統計発展を祝福し、誇りと自信をもつて胸を張つて前進していこう。

≪表彰の笑顔苦勞を刻むしわ≫

6,000余人の調査員の中から選ばれて表彰の栄に浴した170人の功勞者に心から敬意と拍手をおくろう。

15年以上の長い歳月を統計調査に従事して立派な成果を挙げられた優秀な人ばかり、本当にご苦勞様でした。

平素忙しい家業のかたわら、他人からは敬遠され勝な面倒な統計調査に情熱を打ちこんで統計発展に貢献され

できたのである。一口に15年といつてしまえば短いように感じられるが、生れた子供が高校1年生に成長する期間で、振り返つてみればいろいろと苦勞が多かつたことと思われる。

いま、日頃の努力が、表彰という形になつてこの晴れの大会に受賞されたことは当然のことであり、社会の発展の蔭の功勞者として大いに称えられるべきであろう。

≪満場の拍手に照れる受賞の子≫

統計図表コンクール入選者の表彰、拍手の音がこの可憐な子供達の栄光を称えて一きわ高く鳴りひびく。

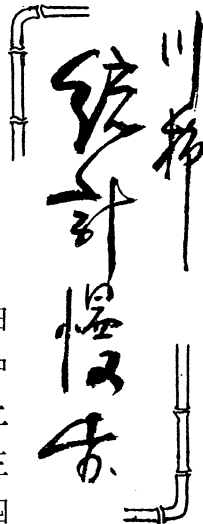
子供達待望の夏休の楽しい時間を、この図表コンクールにかけて、資料の観察研究に、そして作図に、きつとその幼ない手にあどけない顔に玉の汗をにじませながら一生懸命に描いたであろう作品が、いま入賞の金、銀、赤、黄紙に輝やいて会場に展示され大人の目に賞讃されている。みんな見事な作品である。

いまそれらの図表を描いた小さな手に大きな表彰状が、知事から、教育長から、統計協会長から夫々に伝達される。大人達の視線を背に受けて、小さな胸を張つて頬ペタを真赤にさせて姿勢も正しく堂々と壇上に登つていく。また来年も良い作品を作つてこの大会に出席できるようがんばつてください。

≪この感激小さな胸にたたみこみ≫

三ツ子の魂百まできつと今日の感激が、幼ない心の隅に一生残つていて統計に対する認識を何時までも忘れないでこの日の情景を思い出すことであろう。

統計図表コンクールは、統計教育の一環として小、中高校生を主として行なわれているものであり、たとえ技術は未熟であつても、オリンピックと同じく参加することに大きな意義があると考えられる。そしてこの図表を通じ統計というものに対する考え方を幼ない子供達に植えつけ、今後ますます複雑、高度化する統計に対する認識を新にして、将来社会人として統計への協力が容易になつてこそ、統計教育の成果は立派に結実して明るい日本の建設のために、統計の真価が大いに発揮されるものであろう。



田中二三四

(5)

統計の改善

調査員手当の答申でる

行政管理庁では、さきに統計調査員制度の改善について、統計審議会に対して諮問し、これに対して統計調査員の手当のあり方については昨年10月答申(1)として出されていたが、このほど統計調査員手当額についての意見が答申として提出された。これは、昨年統計基準局が実施した「調査員業務実態調査」の結果等からみて、調査員手当額は、現行の国家公務員の行政職俸給表(1)の7等級2号俸の給与に相当する額(日額換算約700円)が適当であるとしたものである。この答申ではさらに「この調査員手当は給与または賃金とみなし」今後公務員給与のベースの改訂にスライドさせるのが妥当である旨をつけ加えている。

この答申による手当がそのまま予算要求の形で出るとすれば、従来の単価 350円に対して倍額となるわけであり、これが実現についてどのような態度でのぞむかが事務当局に残された今後の問題とされているようである。

1965年中間農業センサスの設計

農林省では、1965年2月に中間農業センサスの実施を計画しているが、この調査の設計についてこのほど統計審議会の意見が、答申(1)として行政管理庁長官に提出された。このセンサスでは、農業調査、農業集落概調査、大規模農家調査、団体経営体調査の4種の調査が計画されているが、今回の答申(1)では、そのうちの農家調査に関するものに限られている。

- 1 農家、世帯員、その就業状態等の項目の規定や分類方法等についてなお改善すべき点があり、これらを含めた農業センサス全般について根本的に検討する必要があるが、今回は一時的な変更にさけて、過去のセンサスの時系列比較に重点をおき全面的な改正については十分な時間と経費をかけて、1970年農業センサスまでに実現するよう要望していること。
- 2 今回の調査では、さしあたりつぎの点を考慮すること。
 - (1) 農家世帯の年齢別人口は、従来の16才以上を15才以上とすること。
 - (2) 世帯員の季節出嫁ぎの定義を明確にすること、出稼先に漁業を加えること。
 - (3) 農業臨時雇の農繁期別は不明確であるから、年間延人数(男女別)とすること。

- (4) 農産物の種類別収穫面積については、とくに市町村等における利用を充分考慮して決定すること。
- (5) 農作物の作業種類別使用労等、センサスに必ずしも適さない項目については、なるべく他の調査にゆずること。

国勢調査第2次試験調査の実施きまる

福島市、広島市、呉市における第1次試験調査の検討と、その結果に基づく各省との意見の調整を終り、予定どおり、9月下旬から10月上旬にかけて第2次試験調査が実施されることになり、このほどその大綱が発表された。これによると、調査事項で懸案になっていた1年前の常住地と教育は除外され、従業地・通学地と住居関係は採用されている。

総理府統計局では、この調査大綱が最終案にほぼ近いものとみており、また今回の国勢調査ではじめて採用される光学式読取装置のテストも兼ねているところから、こんどの試験地域は、茨城、北海道など15道府県という従来にない広範なもので、それぞれの道府県庁所在地で15調査区ずつを調査地域として選ぶことになっている。

調査方式も、従来は、調査員に対する説明等を統計局の係官が直接行なっていたが、今回は、当該府県の担当者を通じて行なうなど、いわゆるフル・ドレスに近いものになっている。

労働力調査特別調査要綱きまる

本年10月分の労働力調査に付帯して行なう特別調査の要綱が本ぎまりとなつた。これは毎月行なっている労働力調査が週間主義をとっているのに対して、平常の就業状態をとらえるとともに、転職、離職、常住地異動までいわゆる労働力の流動状況を明らかにすることを目的としたもので、労働力調査の対象となつている世帯から12,000世帯を選んで調査するものである。

調査区設定ブロック会議

明年の国勢調査をひかえ、その調査区設定のための地方別指示説明会が、7月末から8月中旬にかけて開催された。なお、国勢調査区は、一応ことしの10月1日現在で設定され、その後必要に応じて修正して、国勢調査の実施される明年10月1日に確定されることになっている。

☆近着統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
人 口			労 働 と 経 営	39年 7.8月	日 本 労 働 協 会
男女年令別将来推計人口	39年6月	厚生省人口問題研究所	各都道府県		
人口推計月報	39年 6.7月	総 理 府 統 計 局	栃 木 の す が た	39 年	栃 木 県 統 計 課
経済・財政			市 町 村 勢 要 覧	39 年 刊	愛 媛 県 "
消費者物価指数	39年8月	総 理 府 統 計 局	市民所得推計結果報告	37 年	横 浜 市 "
主要経済指標	39年 7.8月	通産大臣官房調査統計部	工業統計調査結果速報	38 年	神 奈 川 県 "
通産統計月報	39年 9.10月	"	香川県の県民所得	37 年	香 川 県 "
出荷・在庫統計速報	39年 8.9月	"	県 勢 要 覧	39 年 刊	宮 崎 県 "
家計調査報告	39年 6.7月	総 理 府 統 計 局	滋賀県の人口雇用・賃金	39年5月	滋 賀 県 "
日本産業構造調査月報	39年 9.10月	日本産業構造研究所	千葉県消費者物価指数	39年 8月分	千 葉 県 "
関東経済統計月報	39.7月	関東経済調査会	愛媛県人口構造の解明	39 年	愛 媛 県 "
東京小売物価動向	39年 6.7月	東京商工会議所	学校教育統計調査報告書	38 年 度	静 岡 県 "
農 林 金 融	39年8月	農 林 中 央 金 庫	静岡県の賃金の動き	"	" "
産 業			香川県の工業	38 年	香 川 県 "
日本標準商品分類(第1巻)	39.8改	行 政 管 理 庁	長崎県勢要覧	39 年	長 崎 県 "
法人企業投資実績統計調査報告	38 年 度	経済企画庁調査局	徳島県勢一覽	"	徳 島 県 "
通商産業統計要覧	39 年 版	通産大臣官房調査統計部	学校の現状と卒業生の状況	"	愛 知 県 "
紙パルプ統計速報	39年8月	"	岐阜県統計書	37 年	岐 阜 県 "
繊維統計月報	39年7月	"	横浜経済統計年報	39 年	横 浜 商 工 会 議 所
窯業建材統計月報	"	"	統 計 青 森	39年 8.9月	青 森 県 統 計 課
品用品皮革統計月報	"	"	北 海 道 統 計	"	北 海 道 "
塩化ビニール・ゴム統計月報	"	"	統 計 い わ て	39年9月	岩 手 県 "
農林水産統計月報	39年 8.9月	農林省統計調査部	み や ぎ 統 計	39年 8.9月	宮 城 県 "
昭和39年製材統計	39年 5.6月	"	統 計 秋 田	39年8月	秋 田 県 "
社会・労働			統 計 計	39年 8.9月	山 形 県 "
業務統計	38 年 度	住 宅 金 融 公 庫	統 計 春 秋	39年 5.6月	福 島 県 "
時事年鑑	40 年 版	時 事 通 信 社	統 計 千 葉	39年9月	千 葉 県 "
統計関係法令集	39年9月	文 部 省 調 査 局	茨 城 県		
国民健康保険事業月報	39年 8.9月	厚 生 省 保 險 局	失 業 保 險 業 務 概 要	38 年	県 失 業 保 險 課
労働力調査報告速報	39年 7.8月	総 理 府 統 計 局	ニ ュ ー い は ら き	39 年	県 秘 書 公 聴 課
食糧管理月報	39年 9.10月	食 糧 庁	気 象 月 報	39年 7.8月	水 戸 地 方 気 象 台
都道府県展望	39年 8.9月	全 国 知 事 会	県 主 要 経 済 指 標	39年 5.6月	日 銀 水 戸 事 務 所
日本統計月報	39年 8.9月	総 理 府 統 計 局	県 民 と 共 に	39年 9.10月	県 秘 書 公 聴 課
統 計	"	"	観 光 い は ら き	39年 7.8月	茨 城 県 観 光 協 会
教 育 統 計	39年 5.6月	文 部 省 調 査 局	治 安 い は ら き	"	茨 城 県 防 犯 協 会



人間雑話 (25)

茨城大学教授 塚本勝義

スタンダールは〔恋愛論〕の中でこんなことを言っている。世界の政府の中で、一番国民の一人一人をまともと考えて政治をやつてるのはアメリカ政府である。もしも政府の政治が良いだけで国民のすべてが幸福になれるというならアメリカ国民のすべてが幸福に暮しているはずである。ところが、アメリカに行つて見よ。良い政治に浴しているアメリカ国民の中にも随分不幸な人たちがいるではないか。人間は決して良い政治だけでは幸福になれない。幸福は人間の一人一人が自分で作り出すものであるからだ——と。まことに現実的で至当な考え方である。

幸福には外から与えられる要素もあるが、それがすべてでない。自ら作り出さねばならぬ要素がある。この自分で作り出す要素が、その人の〔心がけ〕だ。心がけが良ければ幸福を見事に作り出せる。

ここにA君という青年がいる。その左右にB子さんとC子さんがいる。B子さんはA君を日本一好ましい男性と信ずる。だからA君と会うたびに楽しくつて嬉しくつてたまらぬ。ためにB子さんは毎日毎日が幸福そのものである。C子さんはA君とびつたりしない。彼の顔を見ただけで不快になる。声を聞くとぞつとする。近寄られるとふるえが来る。だからC子さんの毎日は不幸に塗つづされている。ところでB子さんのよろこぶA君も、C子さんを不幸にするA君も全く同一人である。B子さんと合うときのA君もC子さんと合うときのA君も、人間の形も質も変わらない。B子さんとC子さんは同じA君に会いながら、幸と不幸にはつきりわかれる。それはA君が原因になっているのではない。B子さんの感じ方考え方とC子さんのそれとの差異のもたらす結果である。心がけの相違が明と暗とに二分するんだ。スタンダールの指摘したのはこの事実にはかならぬ。

同じ日に同じ額のボーナスをいただいても事情は同傾向を示す。〔ありがたい〕と思つていただければ、その日ぐらひは幸福になれる。ケーキもおいしく酒もうまい。〔なんだこれつぼつち〕かと思つて取れば、握つたときから不幸がはじまる。そこらいつばい癪の種となる。

合理的に科学的に生きる用意はいい。矛盾しないことも筋道を通すことも大切だ。雨樋だつてひきがえるでつまればくさりが早い。しかし人間は科学に徹したから、

筋道を通したから、それだけで幸福になれるものではない。合理や科学や筋道を超越した〔よろこび〕を感じ得る修行をしないことには幸福を味わうことはできない。

近頃の日本人は合理や科学にひつかり過ぎて思うように思う。合理や科学だけで幸福がつかめるような錯覚を持つているように思われる。不合理をただすことはいだらう。しかし、説明できないよろこびだからと言ってこれを踏みつづすのは不幸なことだ。いつたいよろこびなんというものは、もともと正体のはつきりしないものなんだから。

○ ○ ○ ○

過去の楽しかったことを思い出して喜んだつて何になる。安ばい甘い感傷だ。大切なのは現在だ、もつと大切なのは未来だぞと勇猛果敢な偉者はおつしやる。たしかに現在も未来も重要だ。が、よろこべる過去を持つ人がその過去をよろこぶのがなぜ悪いんだ。よろこべるものなら過去のものだろうと未来のものだろうと片端からよろこんでいいではないか。なぜ感傷が悪いのか、なぜ甘いのは悪いのか。感傷だつて、甘い心だつて、すなわち人間の心ではないか。人間の心を、人間の主体性を尊重する立て前からすれば、感傷だつて甘い心だつてぞんざいにできないはずだ。

年の暮には過ぎた一年間の悲喜哀歓を十二分に味わいたい。失恋した者は、その失恋の哀しみにもう一度泣くがいい。金を落した者は、もう一度、落したあたりをさまようがいい。そして一年かかつて刻み込んだ人生のヒダを涙と共になつかしみながら確認したい。この人生のヒダは忘年会の二級酒で洗い去るには余りにも惜しいからだ。

○ ○ ○ ○

過去を軽蔑する連中は、過去は完全に消滅してしまつたとひとりぎめしているんだ。甚だもつて非科学的な考え方だ。過去を、過去として意識する以上、決して消滅していない。厳密にいうなら〔現在の中にある過去と名づけられた現在〕である。正に〔現在の一種類〕だ。

元旦には少年少女の頃でも思い出して、あじけない初光に生彩を添いたい。別れた妻だつて思い出せば茶の間もそれだけにぎやかにならう。幸福の要素は、どんなに小粒でも拾い出して今日の生活に役立てたい。